

ぐらんぴー 栽培資料

トキタ種苗株式会社

肥料

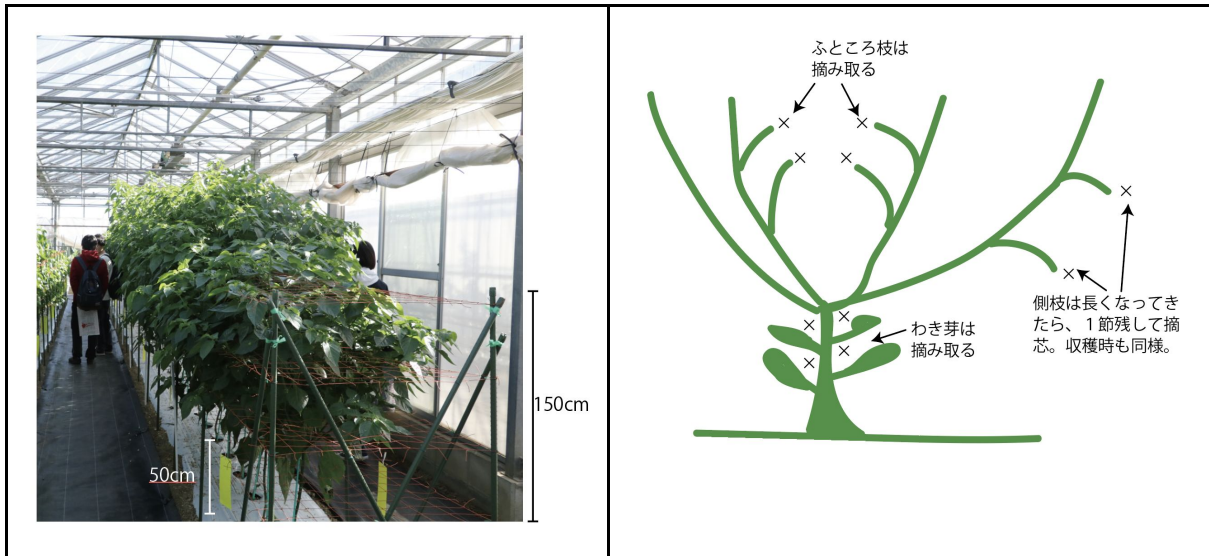
土作り：10a当たり 苦土石灰100kg、完熟堆肥3000kg
元肥：10a当たり 窒素20kg、リン酸20kg、カリ15kg
追肥 最初の着果した果実の肥大期に10a当たり 窒素3kg程施用
生育状況を確認して数回施用する。肥効の出やすい液肥も利用する

定植

株間50cm、1条植え、マルチ内に灌水チューブを設置する。
一番花の開花直前の苗が定植適期です。
低温期の定植はマルチを利用し地温を上げ、定植地温を確保してから定植する。最低気温が12℃以下の場合はハウスまたはトンネルが必要。
高温時期（7月、8月）に定植する栽培では地温抑制マルチ（シルバーまたは白黒ダブル）を7日前に展開し地温を下げてから定植。活着を十分行うために定植前の植穴と定植後の株元に灌水を行い、活着まで遮光資材を利用する。
生育適温は、昼間25-30度、夜間15-20度。10度以下、30度以上が続くと短いものや曲がったものなど異形果が発生しやすくなります。定植時には50cm程度の仮支柱に結び付けておきます。

仕立て方 4本仕立（草勢が安定し各節に花が付き着果しやすい）

図の様に支柱で支え誘引ひもでも主枝4本を誘引する。
生育初期の1節（最初に主枝が2本に分れる節）～2節程までは摘花して樹勢を作る。3節は緑果で収穫、4節から色を付けて完熟収穫を行う。
側枝への着果は7節以降にして樹への負担を少なくして初期の草勢を強くする。
側枝は20cm程まで伸ばしてから果実1個と葉2枚を残して摘芯する。
側枝の芯止めは20cm程まで伸ばしたほうが草勢を保ちやすい。
内側に向かって伸びる枝や弱い枝を適宜整理し、光が十分入るようにする。



収穫判断 全体が均一に色変わりしたら完熟収穫の適期です。収穫遅れは、樹に余計な負担をかけ草勢を低下させるため適期収穫を行います。

追肥と草勢判断

追肥開始時期は、一番果の肥大時期です。1回の追肥量は10a当たり、窒素成分で3kg程度です。追肥のタイミングは2週間おき程度ですが、草勢が弱い場合は間隔を短く、また液肥を与えて回復を図ります。高温乾燥期には、うどんこ病の防除を行い、灌水を実施し水切れにならないようにします。